

諸外国の文化財保存修復専門家養成 (②セ06-10-5/5)

目 的

諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転を積極的に進める。また、アジア諸国の文化財保護担当者や保存・修復専門家などの人材養成に関する支援事業を国内外で実施するとともに、人材養成に必要な教材や教育手法に関する研究開発を行う。

成 果

(1) 研修用テキスト作成

文化財の保存修復の研修に活用するための教材として、出土金属の保存処理に関するテキストを作成した。本テキストでは、考古学的遺跡から出土した金属製遺物（鉄および銅製品）について、遺物を構成する素材やその劣化メカニズム・症状などを紹介したうえで、現場からの取り上げと仮保管に続き、適切な保存処理方法について、事前調査から、洗浄、処理、復元、保管・管理といった一般的な流れに沿って解説している。なお、処理実例の紹介等においては、東京都埋蔵文化財センターから資料提供、撮影協力を受けた。テキストは、海外専門家を対象とする研修等で使用することを想定し、日本語版と同一内容の英語版とを作成した。

(2) 研究会の開催

海外の保存修復専門家養成を目的とした研修については、カリキュラム作成をはじめとする研修計画立案と具体的な実施の両面において、手法的確立がなされておらず、この点に関する実施機関相互における情報交換・共有もあまり行われていないのが現状である。このような観点から、国内外の研修実施機関から担当者を招聘した研究会を開催した。各機関が実施している研修の内容と実施上の課題等を紹介するとともに、課題解決等に向けて活発な意見交換を行った。また、今後の参照に供するため、研究会の全内容を収録した報告書を日本語・英語の2カ国語版で作成した。

- ・「海外の文化財保存修復専門家養成を目的とする国際研修等の実施に関する研究会」

日 程：2011（平成23）年2月2日（水）～3日（木）

発表者：山内和也（東京文化財研究所）、杉山洋（奈良文化財研究所）、岡田健（東京文化財研究所）、張可（中国文化遺産研究院）、朴鐘瑞（韓国国立文化財研究所）、カトリーナ・シミラ（ICCRUM）、パッチャラウィー・トゥンプラワット（SEAMEO-SPAFA）、園田直子（国立民族学博物館）

刊行物 3件

- ・『出土金属の保存処理』テキスト 東京文化財研究所 11.3
- ・『Conservation Treatment for Archaeological Metal Objects』 National Research Institute for Cultural Properties, Tokyo 11.3
- ・『海外の文化財保存修復専門家養成を目的とする国際研修等の実施に関する研究会』報告書 東京文化財研究所 11.3

研究組織

○清水真一、友田正彦、新免歳靖（以上、文化遺産国際協力センター）